

7月14日 - 18日週のドル円レビュー

July 22, 2008

米GSE支援策もドル円の上値限定

High : 107.11 円 Low : 103.77 円
Close : 106.98 円 (前週比 +0.68 円)

GSE 支援策が好感される動きからスタートしたものの、米金融機関に対する格下げで株価が不安定に推移。原油価格も高水準で推移したことで、円買い・ドル売り優勢へ。ドル円は 103.77 円と 1 ヶ月半ぶりの安値を示現。バーナンキFRB 議長の議会証言でも景気下振れに言及したことからドル売りが強まる場面もあった。米金融機関の決算は予想より損失が少なく、ドルはやや買い戻し。

7/14 (月) 106.16 円 (前日比 0.14 円)

ドル円は朝方に、米 GSE の支援策発表を受けた欧州株式の大幅上昇を受けて 106.81 円まで上昇。米金融全体の不安を払拭できなかったことから株が下落すると、ドルも下落。さらに資源高も追い討ちをかける形でドルの下落を誘った。結局、106.04 円まで下落した。

7/15 (火) 104.76 円 (前日比 1.40 円)

米金融不安による世界同時株安を受けて、ドルは主要通貨に対して大幅下落。ドル円は 105.80 円を抜けると一気に 104.60 円まで急落。米マクロ指標の悪化やバーナンキFRB 議長の「景気の下振れリスクがある」との発言を受けて、最終的には 104.14 円まで下押しした。

7/16 (水) 105.14 円 (前日比 +0.38 円)

米地銀破綻不安からのドル売りの流れを受けて、ドル円は 6 月初旬以来の 103 円台を示現したが、週間原油在庫統計が 510 万バレルの積み増しとなり、さらにはバーナンキ議長が為替介入について言及したことから、ドル円は 105.20 円まで反発して終了した。

7/17 (木) 106.30 円 (前日比 +1.16 円)

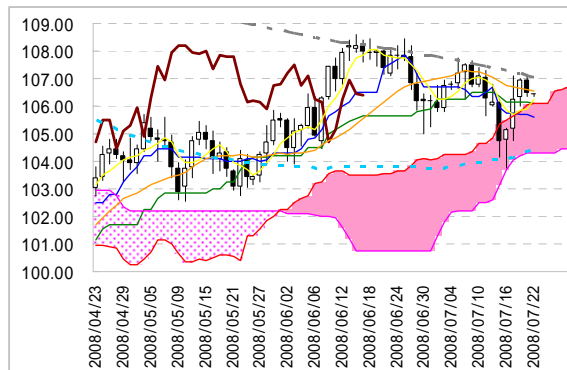
ドル円は 105.51 円まで上昇後に 105.11 円まで反落。しかし、JP モルガン・チェースの決算発表をきっかけにドルは大幅上昇に転じ、105.88 円の高値を示現。

7/18 (金) 106.98 円 (前日比 +0.15 円)

注目のシティの決算は、予想ほど悪化しなかった。これを受けて一気に米株価指数先物が上昇。欧州株も金融株が大幅高になりプラス圏へと大きく上昇すると、ドル買いおよび円売りの反応が強まった。ドル円は一時 106 円割れとなっていたが、シティ決算で 106.74 円へ上昇した。

月日	High	Low
7/14 (月)	106.81 円	105.96 円
7/15 (火)	106.28 円	104.16 円
7/16 (水)	105.20 円	103.77 円
7/17 (木)	107.11 円	104.76 円
7/18 (金)	106.99 円	105.97 円

ドル円の推移



テクニカル短期・中期ポイント

- 108.59 (6月16日高値)
- 107.07 (200日移動平均線)
- = 先週末の NY クローズ 106.98 円 =
- 106.10 (日足一目均衡表・基準線)
- 106.08 (日足一目均衡表・雲の上限)
- 105.86 (55日移動平均線)
- 105.60 (日足一目均衡表・転換線)
- 103.77 (7月16日安値)

米国の重要指標結果

- 7/15 (火) 【結果】 (前回)
- バーナンキFRB 議長、景気下振れリスクを言及
- 6月小売売上高 [+0.1%] (+0.8%)
- 7/16 (水) 【結果】 (前回)
- 6月消費者物価指数 [+1.1%] (+0.6%)
- 米6月消費者物価指数・コア [+0.3%] (+0.2%)
- ウェルズ・ファーゴ第2四半期決算、予想より強い
- バーナンキFRB 議長、為替介入を否定せず
- 7/17 (木) 【結果】 (前回)
- JP モルガン・チェース第2四半期決算、予想より強い
- メリルリンチ第2四半期決算、予想より弱い
- 7/18 (金) 【結果】 (前回)
- シティグループ第2四半期決算、予想より強い

アウトルック ダイジェスト版

レンジ : 105.00 円 107.50 円

米国ではベージュブック、新築・中古住宅販売、耐久財受注と米金融機関 2Q 決算の発表で悪化を予想。ベージュブックでも地域景気判断が下方修正になるか。テクニカル面では引き続き NY 引け値が 200 日移動平均線 (107.07 円) にて抑えられるかに注目。